

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。
a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

一 (評論) 採点基準

★全ての答案について、「歴史・西洋史」と「歴史学(歴史研究)・西洋史学(西洋史研究)」との厳密な使い分けがなされているかどうかをしっかりと吟味する。歴史学・西洋史学とすべきところが歴史・西洋史となっている答案の出現が予想される。その場合はそのつどマイナス1点とする。

問一 各2点(20点)

a || ト b || レイヒツ c || 果敢 d || ツウギョウ e || 駆使
f || 随分 g || 葛藤 h || カタヨ i || シュンエイ j || 語彙

問二 各2点(10点)

A || オ B || ア C || イ D || カ E || ウ

問三 (10点)

A ① 2点 A ② 2点 B 2点
C ① 1点 C ② 3点
〈模範解答例〉日本は學術研究の一つとして 西欧から歴史学を摂取したが、西洋史研究の視点も 独自のものではなく、西欧の文明先進国であった英・独・仏の立場を受け容れたということ。

A 本文の「學術研究のひとつとして 西欧式の歴史学が導入され」をほぼなぞったもの。模範解答例の「摂取」はもちろん「導入」のままでもよい。①と②が完備されているならAとして4点与える。

B 西洋史学(西洋史研究)について、「視点」という語が使われていれば2点与える。「視点」は「観点」「視座」「立場」また「見方」といった類義の語も許容してよい。

C Bの「視点」についての説明。①の「(日本)独自のものではなく」はほぼ同意と見なされる説明があれば1点与えてよい。②については「英・独・仏」はなくてもよい。「西欧」「先進国」という語があれば3点与えてよい。「先進国(先進文明)」がなければC②は2点とする。

問四 (4点)

A 3点

B 3点

C 2点

D 3点

E 3点

〈模範解答例〉物心ともに困難な環境の中で、西欧歴史学に依存しない独自の研究を目指してきた日本の西

洋史学が、その過程で蓄積した成果を前提に、グローバル化した現代世界における新たな西洋

史へのアプローチの仕方を探ること。

* A・Bが「一九三〇年代以降の日本の西洋史学の在り方」の説明、C・D・Eが「みずからの存在理由をさぐりなおす」についての説明となっている。そのことを念頭に置いて採点にあたる。

A 本文の「西洋史をとりまく研究環境には物心ともに困難さがつきまとった」に対応。具体的には「原典史料へのアクセスのむつかしさやつらさ、そしてさらに当の欧米・日本をつつみこんだ時代の風雲」と説明されているので、この説明をほぼそのまま使っている場合、また、ほぼ同等の内容と判断できれば3点与えてよい。

B 本文の「日本西洋史学による自前の研究があらわれだす」「日本西洋史学が自力・独自の研究を展開」に対応する。「自前」「自力」「独自」という語があれば2点与えてよい。「西欧(西洋)(歴)史学に依存しない」ということが明確に述べられているならさらに1点加えて3点とする。

C 本文の「日本の西洋史は、むしろ今、質量ともに充実期を迎えつつある」「西洋史ないし西洋学のかなりな部分は、日本列島とそこに暮らす人間にとって、すっかりとはいわないものの、随分と血肉となりつつある」から引き出された説明。ほぼ同等と見なせる説明には2点与えてよい。

D 本文には「世界のグローバル化と世界構造そのものの激変」とある。ほぼこのまま答案に引いていてももちろんかまわない。ともかく「世界のグローバル化」ということが述べられていれば3点与えてよい。

E 本文の「従来型のアプローチを根底からゆさぶらずにはおかない」に即した説明。傍線部の最後が「さぐりなおす」となっているので、解答例は「アプローチの仕方を探る」としている。「アプローチの(仕方の・方法の)模索」ということが説明できていれば3点与えてよい。

問五 (2点)

A 2点

B 2点

〈模範解答例〉歴史研究の国際化が急速に進む現代では、研究者が自国と対象の国・地域とを絶えず往還し

C 2点

D 3点

E 3点

て、現地の文書・原物にアクセスし、近代西欧モデルを乗り越えうる。独自の広やかな世界像・

世界史を構築・発信すべきであるから。

A 本文の「研究そのものが、近年ことに急速に国際化した」に対応する。答案にほぼ同等の内容があれば2点与えてよい。説明が曖昧と判断されるなら1点だけ与える。

B 本文の(研究者が)「研究対象の国・地域とのたえざる往還に身を置くことは避けがたい」に対応する。答案にほぼ同等の内容があれば2点与えてよい。

C 本文の「原文書・原物へのアクセス」に対応する。答案にほぼ同等の内容があれば2点与えてよい。

D 本文の「近代西欧モデルを真にのりこえる」に対応する。答案にほぼ同等の内容があれば2点与えてよい。

E 本文の「独自の広やかな世界像・世界史を構築・発信できる」に対応する。答案にほぼ同等の内容があれば2点与えてよい。

A 4点

B 3点

〈模範解答例〉先進文明である中国から知と文化を学ぶために平安末に始まり、江戸時代には学問として

C 4点

制度化された漢学が、西洋からの学術・技術・知識の受容に重点を移した文明開化期の日本で

D 3点

衰退するどころか最盛期を迎えたから。

A 「漢学」の始まる理由の説明。本文の「日本が以前から手本とも教師ともしてきた中華」、および「大陸からの知と文化の波」という記述から引き出された説明。「先進文明」という語（または、それに相当する表現）がなければマイナス1点。「知と文化を学ぶため」という表現（または、それに相当する表現）がなければマイナス2点。要するに、「（中国から）漢学を受け入れた」ことしか記されていないならば1点しか与えられないということ。

B 日本の「漢学」の時代推移の説明。本文では「平安末ころからいわゆる「漢学」をそれはそれなりに受容し始め」そして「鎌倉中期から南北朝、そして室町時代以降は、文字どおり「漢学」をもって学問とすることとなり、やがて江戸時代も元禄あたりからは、それがひととおり備わって」と説明されている。こうした記述をそのまま答案に説明する字数的余裕はないので、簡略にまとめたものである。「制度化」という表現はまず出てこないと予想されるので、これはなくてもよい。「漢学」の時代推移を本文との矛盾なく説明できていれば3点与えてよい。

C 本文の「明治からは、「漢学」という東アジアサイズの学問とは別に、国の浮沈をかけて、いわば「西学」という世界サイズの学術・技術・知識の受容に必死となった」という記述に基づいている。この内容を答案に正しく反映させているなら4点与える。解答例の「文明開化期」は「明治（時代）」でももちろんかまわない。「文明開化期」も「明治」もない場合はマイナス1点。答案の説明が曖昧であると判断された場合は2点とする。

D 傍線部の「まことに興味深い」のニュアンスが、答案で説明できているか否かを吟味する。ここは、時代の趨勢に逆行するかのような意外な事実への筆者の感慨が込められていると判断できる。そこから「衰退するどころか」という説明が引き出される。事の意外さへの驚きといったニュアンスが正確に答案に示されていれば3点与えてよい。単に「最盛期を迎えたから」「最も盛んになったから」というだけの説明なら1点とする。

三 (古文『俊頼髓脳』) 採点基準

※ 60点満点

問一 Aの和歌について、忠岑が詠んだ時点での歌の意味を説明せよ。 【8点】

〔該当和歌〕 A2しら雲のおりゐる山とB1見えるはC3高嶺に花や散りまがふらむ(D2)
〔模範解答〕 A2白い雲が山に下りて来ているB1ように見える(A)のは、C3高い峰に桜の花
が散り乱れているD2のがそのように見えている(C)のだろうか、という意味。

〔ポイント〕

A【2点】 白い雲が山に下りて来ている くのは、

※CがXの場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※「白い雲(白雲)が下りている山は」でもよい。

※「白い雲」は「白雲」、「下りている」は「乗っている」でもよい。

※「白い」「山」は、一つ欠けるごとにマイナス【1点】。

B【1点】 ように見える

※AがXの場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※「見える」は「見えた・思える」でもよい。

C【3点】 高い峰に桜の花が散り乱れている く のだろうか、という意味。

※AがXの場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※「高い峰」は「高嶺・頂き(頂)・峰」、「桜の花」は「花・桜」でもよい。

※「乱れ」と「か」(疑問)はなくてもよい。

※「いるのだろう・いるのでしよう」(現在推量)は「いるからだろう・いるからでしよう」でもよい。

「いる」がない「だろう・でしよう」(推量)などはマイナス【1点】。

推量が全くない場合はマイナス【2点】。

※「という意味。」はなくてもよい。

D【2点】 のがそのように見えている

※AもCもXの場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※Bの位置の「見える」以外に、「雲に見えるのは花だ」「花が雲に見える」の意が読み取れる表現があればよい。

※Dがなくても、Cの推量部分に「いるからだろう・いるためでしよう」のように「から・ため」があれば【1点】とする。

問二 ① 傍線部について、ことばを補いながら、わかりやすく現代語訳せよ。 【8点】

〔該当傍線部〕 (A2・B1) C2あはせて、D3世の中のかはりにけり

〔模範解答〕

A2「雲おりるる」や「散りまがふ」はB1帝の退位を連想させてC2よくないという躬恒の指摘に符合するようにして、D3帝の代が替わってしまった

〔ポイント〕

A【2点】(補い) ↓ 「雲おりるる」や「散りまがふ」は

※「雲おりるる」「散りまがふ」という具体例があがっていれば、それぞれ【1点】。

B【1点】(補い) ↓ 帝の退位を連想させて

※「帝の退位を連想させる」の意があればよい。

C【2点】あはせて、 ↓ よくないという躬恒の指摘に符合するようにして、

※「よくないという」はなくてもよい。「指摘」は「批判・言葉」などでもよい。

※「符合するように」は「合わせて・合わせるように・時を同じくして」などでもよい。※

※「躬恒の指摘」の代わりに「忠岑が詠んだ」でもよい。「忠岑が詠んだ歌を躬恒が批判した」のように躬恒と忠岑の両方の件が書かれていてもよい。

※「躬恒・忠岑」がない場合、誤っている場合は【1点】。

※「符号・合う・同じ」など「あはせ」に相当する訳語がない「躬恒の指摘のように・忠岑が詠んだように」などは【1点】。

※「躬恒・忠岑」がない場合、誤っている場合で、「あはせ」に相当する訳語がない場合は×。

D【3点】世の中のかはりにけり ↓ 帝の代が替わってしまった

※「帝の代が替わる」の意があれば【1点】。

※過去の意が付いている「帝の代が替わった」は【2点】。

※過去と完了の両方の意が付いている「帝の代が替わってしまった」は【3点】。

問二 ② 傍線部について、ことばを補いながら、わかりやすく現代語訳せよ。

【8点】

〔該当傍線部〕 A3 そのけにや、B2 いくばくの程もなく、C3 院、かくれおはしましにき。

〔模範解答〕 A3 「夢の後」があのを意味する不吉な表現だったためであろうか、B2 いくばも

経たないうちに、C3 堀河帝は、お亡くなりになってしまった。

〔ポイント〕

A【3点】そのけにや、↓ 「夢の後」があのを意味する不吉な表現だったためであろうか、

※「くためであろうか・くためか・くせいか・く原因か」などの意がない場合は×。

※「夢の後」「あのを意味する」「不吉」のうち一つが欠けるごとにマイナス【3点】。

B【2点】いくばくの程もなく、↓ いくばも経たないうちに、

※直訳的でないが、意味は誤っていない「すぐに」などは【1点】。

C【3点】院、かくれおはしましにき。↓ 堀河帝は、お亡くなりになってしまった。

※「死んだ」の意がない場合は×。

※「堀河帝」は「堀河院」でもよい。「堀河」が明らかになっていない場合や誤っている場合は

マイナス【1点】。

※「お亡くなりになる」は「亡くなりなされる・亡くなられた・崩御した」でもよい。

「亡くなった・死んだ」のように尊敬の意がない場合はマイナス【1点】。

問二 ③ 傍線部について、ことばを補いながら、わかりやすく現代語訳せよ。

【8点】

〔該当傍線部〕

A 4 されば、B 4 忌々しかりしなめり。

〔模範解答〕

A 4 「たまのみどの」は亡くなった人を納めておく場所の名である「たまどの」を思わせるので、B 4 不吉であるとされたのであるようだ。

〔ポイント〕

A 【4点】されば、 ↓ 「たまのみどの」は亡くなった人を納めておく場所の名である「たまどの」を思わせるので、

※ 『』たまのみどの『』は、 『』たまどの『』を思わせるので【2点】。

※ 『』たまのみどの『』は、 ↓ 亡くなった人を納めておく場所を思わせるので【2点】。

「納めておく」は「安置する」などでもよい。

「亡くなった人を納めておく場所の名である」という具体的説明はないが、「死を連想させる・死者を思わせる」などがある場合は【1点】。

※ 「思わせる」は「連想させる・通ずる・似ている・意味する」などでもよい。これにあたる表現がない場合はマイナス【1点】。

※ B へつながる箇所は、「(歌に)詠んだので、」でもよい。

B 【4点】忌々しかりしなめり。 ↓ 不吉であるとされたのであるようだ。

※ 「不吉」は「縁起が悪い・縁起でもない」などでもよい。この意がない場合は×。

※ 「とされた」はなくてもよい。

※ 「し」の過去の訳「た」がない場合はマイナス【1点】。

※ 「な」の断定の訳「である・だ」がない場合はマイナス【1点】。「ようだ・ようである」とあれば、

この「だ・である」を断定と見てよい。

※ 「めり」の推定の訳「ようだ」は「と思われる・だろう・であろう」でもよしとする。これがない場合はマイナス【1点】。

問二 ④ 傍線部について、ことばを補いながら、わかりやすく現代語訳せよ。 【8点】

〔該当傍線部〕 A3 これらをB2 御覧じて、C3 御心をば得おはしませむ料なり。

〔模範解答〕 B2 あなたが、A3 私がここまで書き連ねてきた、作歌における注意すべき例を(B

御覧になって、C3 作歌の御心得をお持ちになるようなためである。

〔ポイント〕

A 【3点】 これらを ↓ 私がここまで書き連ねてきた、作歌における注意すべき例を

※ 「これら」がそのままになっている場合は×。

※ 「作歌(和歌)の注意(教訓)を」、または「不吉な歌が詠まれた後に不吉なことが起きた例を」の意があれば【2点】。

「作歌(和歌)の」がない「注意(教訓)を」は【1点】。

「不吉な歌を」は【1点】。

※ 「私が書いた(言った)ことを」の意があれば【1点】。

B 【2点】 御覧じて、 ↓ あなたが、 ↓ 御覧になって、

※ 「あなたが」がない「御覧になって」は【1点】。

「あなたが」があるが、尊敬表現になっていない「あなたが ↓ 見て」は【1点】。

「あなたが」がなく、尊敬表現になっていない「見て」は×。

C 【3点】 御心をば得おはしませむ料なり。 ↓ 作歌の御心得をお持ちになるようなためである。

※ 「作歌の注意事項(教訓)を心得(知り・分かり・学び・理解)なさるためである・和歌の心得をお持ち(知り・分かり・学び・御理解)になるためである」の意があれば【3点】。

「作歌の注意事項(教訓)・和歌の心得」は「和歌に対する理解」でもよい。

尊敬表現がない場合はマイナス【1点】。

「和歌の・作歌の」等がなく、「心得・注意事項(教訓)」が歌に関するものであることが明らかになっていない場合はマイナス【1点】。

「ためである」が「(心得を)持ってほしい・助けとして欲しい・一助として欲しい」となっている場合は、マイナス【1点】。

問三 この文章で、筆者はどのような作歌の心得を説いているのか、わかりやすく説明せよ。 【10点】

〔模範解答〕

A 6 和歌を詠む場合には、帝の退位や皇族らの死を連想させるような不吉な表現は、
B 4 実際にそれらの人の退位や死亡を引き起こした例もあり、(A) 和歌にも歌の題にも使うべきではない。

〔ポイント〕

A 【6点】 和歌を詠む場合には、帝の退位や皇族らの死を連想させるような不吉な表現は、和歌にも歌の題にも使うべきではない。

※「歌に(作歌において)、不吉な表現(言葉)は使ってはならない(避けるべきだ)」の意があれば【2点】。「歌に」の意がない場合は×。

※「歌題に不吉な表現(言葉)は使ってはならない(避けるべきだ)」の意があれば【1点】。

※「不吉な表現(言葉)」は「帝の退位(代替わり)を連想させる表現(言葉)」となっていれば「不吉な」はなくてもよく【1点】。

※「不吉な表現(言葉)」は「皇族(帝)の死を連想させる表現(言葉)」となっていれば「不吉な」はなくてもよく【2点】。

「皇族」に相当する表現がない「死(人の死)を連想させる表現(言葉)は使ってはならない」となっている場合は【1点】。

※心得の内容を言っていれば「と心得」のような文末表現はなくてもよい。

※「周囲から非難される」などの有無は不問。

B 【4点】 実際にそれらの人の退位や死亡を引き起こした例もあり、

※Aが×の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※「現実化するので・実際に起きるので」の意があればよい。

※「現実化」の意がない「現実に影響がある」は【2点】。

問四 波線部 a の会話文（心中思惟）の発言主は誰か。その名を記せ。

【5点】

〔該当波線部〕 詠み人のためにぞいかが

〔模範解答〕 A 5 俊頼 （源俊頼）

〔ポイント〕

A 【5点】 俊頼

※「源俊頼」でもよしとする。

※仮名が混じる表記「としより・源としより」などは【3点】。

※仮名が混じり、「しゅんらい」と読んでいる場合は【1点】。

問五 忠岑や躬恒が撰者として編纂した勅撰和歌集の名称を、漢字で記せ。

【5点】

〔模範解答〕

A5 古今和歌集

〔ポイント〕

A【5点】 古今和歌集

※「古今集」でもよしとする。

※「古今」は【2点】とする。

※仮名が混じる表記は×。

第2回10月名大模試 第3問 漢文 採点基準

問一 a Ⅱしかれども (2点)

b Ⅱものごとし (2点)

c Ⅱすくなし (2点)

※正解は解答例のみ

※カタカナ書きは×

※送り仮名のないものは×

※a「しかし」、b「かくのごとし」など×

問二

a 4点

銭を持たざる者と雖も、

b 2点

皆善薬を与ふ。(6点)

※ひらがなになっているものは半分の点を与える。

※読み順の違い、脱字は×

a 「銭を持たざる者と雖も、」 4点

※「いへども」が「いえども」になっているものは△減点1点。

b 「皆善薬を与ふ。」の訳 2点

※「皆に」は×

※「善い薬」は×

※「与ふ」が「与う」になっているものは△減点1点

※「与える」は×

問三

a 3点

借金を返すことができないと押し量ると、

b 2点

その都度借用証文を焼き捨て、

c 3点

最後まで二度と返済を迫らなかった。(8点)

a 「報ずる能はざるを度り」の訳 3点

※ 「報ずる」の内容に1点

※ 「能はざる」に1点

※ 「度り」の訳に1点

「了した時には」「できないと」などは×

b 「輒ち券を焚き」の訳 2点

※ 「輒ち」に1点

「すぐに(即)」「そこで(乃)」「は×

※ 「券を焚き」に1点

「券」のままは×

C 「終に復た言はず」の訳 3点

※ 「終に」に1点

※ 「復たらず」に1点

※ 「言は」に1点

単に「言わなかった」のように、内容を言っていないものは×

問四

a 2点

私は利益を追求して、

b 2点

それで妻子を養っているだけのことだ。(4点)

a 「清は利を逐ひて」の訳 2点

※ 「宋清は」は△減点1点

b 「以て妻子を活かすのみ」の訳 2点

※ 「ゝ生かしている」「ゝ生きさせている」は△減点1点

※ 「ゝ生かしている」「ゝ生きさせている」は△減点1点

※ 「耳(のみ)」の限定の意が欠けているものは△減点1点

問五

a 1点

代金を払えない者に善い薬を与えたり、

b 1点

借金を返せない者に返済を求めないのは、

c 2点

遠い先のことではあっても、

d 3点

その人たちの中から大官になったりして出世する者が出た時に、

e 3点

薬の代金どころではない大きな報酬が見込めるからである。f
ということ。(10点)

a b 「その人たち (d)」の内容 2点

※ 「貧しい者を救うことで」のようにまとめている場合は減点1点

c 「遠し」「遠き故に」の要素 2点

d 「出世する者が出たら」の要素 3点

e 「大なり」の内容 3点

f 文末の「ということ」の有無は不問。

問六

a 1点

勢力がある時は

b 1点

くつつぎ、

c 1点

衰えれば、

d 1点

離れて行く (4点)

a 「炎にして」の内容 1点

b 「付き」の内容 1点

c 「寒にして」の要素 1点

d 「棄つ」の要素 1点

※ aかcがXの場合はbとdもX

問七

a 3点

宋清は市井の一商人でありながら

b 2点

相手の勢力の有無によって接し方を変えたり、

c 2点

d 3点

目先の利益を追い求めるような 「市道の交り」をしない。

e f 1点

むしろ 朝廷や官庁や学校にいて、

e 3点

自ら士大夫と称する者たちの中に、

g 4点

そうした 「市道の交り」をなす者がいるのは情ないことで、

h 4点

i

士大夫たちは宋清を見習わなければならない ということ。(22点)

a 「清は市に居りて」の要素 3点

※ 「宋清は」が明記されていない場合は、a b c d 全て×

※ 「一商人であるが」の要素が無いものは減点2点

b 「市道の交り(d)」の内容の一つ 2点

※ 「炎にしてゝ棄つ」の部分

c 「市道の交り(d)」の内容の一つ 2点

※ 「清の利をゝ遠し」の部分

d 「市道を為さず」の要素 3点

※ 本文そのまま 「市道を行わない」のようなものは減点2点

e 「士大夫を以て自ら名をる者」の要素 3点

※ 自ら称するニュアンスが欠けているものは減点1点

さらに「ゝの中に」のニュアンスがないものは合わせて減点2点

f 「朝廷に居りゝに居り」の要素 1点

g 「反って争ひてゝ悲しいかな」の要素 4点

h 筆者の「言いたいこと」の要素 4点

i 文末の「ゝとぅいこと」の有無は不問